

科目名	心理学 I B	学期	後期	単位数	2	担当者	上野和久
副題	-						
ナンバリング	N1-10-250	授業方法	講義	実務経験の有無	有	関連DP	1,2,4

授業の目的と概要

この講義では、個人の心理について、特に、情報を受け取り処理し、思考するという認知的な観点から、これまでの研究知見を紹介する。尚、対人関係や発達の視点からの心理学に関する講義は、心理学IIで取り扱う。

授業の到達目標

心理学の歴史、感覚、知覚、記憶、学習、言語、思考、意識等の基礎知識を習得する。

授業計画

1. オリエンテーション、授業計画の説明、心理学の歴史とその全体的な枠組みを紹介する。
2. 実験心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学など、心理学の研究方法について学ぶ。
3. 感覚と知覚について学ぶ。（その1）＜感覚の仕組み＞
4. 感覚と知覚について学ぶ。（その2）＜知覚の仕組み＞
5. 記憶のメカニズムについて学ぶ。（その1）＜記憶の分類＞
6. 記憶のメカニズムについて学ぶ。（その2）＜記憶の過程・長期記憶の種類＞
7. 記憶のメカニズムについて学ぶ。（その2）＜脳と記憶について＞
8. 学習について学ぶ。（その1）＜古典的条件付け＞
9. 学習について学ぶ。（その2）＜道具的条件付け・学習と認知＞
10. 学習について学ぶ。（その3）＜学習と動機づけ＞
11. 言語と思考について学ぶ。（その1）＜言語の発達＞
12. 言語と思考について学ぶ。（その2）＜概念カテゴリー＞
13. 言語と思考について学ぶ。（その3）＜推論とイメージ思考＞
14. 意識と認知システムについて学ぶ。
15. まとめ。授業を振り返り、疑問点等、復習する。

準備学習（予習・復習）・時間

各授業終了後、次回の学習内容を紹介し、重要語句について調べさせる。

各授業終了後、feedback用紙にて、実施した講義の振り返りやキーワードの説明を記述し、次回に提出させる。

テキスト

梅本堯夫,大山正,岡本浩一,高橋雅延著『心理学第2版心のはたらきを知る』サイエンス社,2014年

参考書・参考資料等

森津太子、森公美子編著『心理学概論』,放送大学テキスト,2018年

斎藤 勇編、『図説心理学入門』 誠信書房,2005年

梅本堯夫,大山正著『心理学への招待 こころの科学を知る』サイエンス社,2015年

学生に対する評価

レポート（50％）・発表（20％）・授業参加の積極性（30％）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

- （C）感覚・記憶・学習・言語と思考に関する心理学の基礎的な用語を理解している。
- （B）感覚・記憶・学習・言語と思考もとに心のメカニズムを理解している。
- （A）感覚・記憶・学習・言語と思考もとに心のメカニズムを説明できる。
- （S）感覚・記憶・学習・言語と思考もとに心のメカニズムとともに、脳生理学の理論をからも説明できる。

課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

その他

授業のいくつかの単元で体験的な心の実験（activelearning）を入れながら、学んでゆく。体験学習をいれるので、積極的な参加が必要。特に自己の内的体験を言葉にするような学習スタイルをとる。積極的な参加が必要。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）

NLP（250時間訓練）、SE（250時間）、ISP（100時間訓練）、ゲシュタルトセラピー（125時間訓練）等の専門的な訓練を受けた。これらの研修においては、心理学的な基礎知識のもとに研修がプログラムされており、この学びを生かした「人間の心の成長と傷つき」と「回復」について、実験心理学や基礎心理学を臨床心理学との関係づけながら学び、その興味・関心を持てる場としたい。